

災害薬事リーダーを育成

災害薬事リーダーを対象に和歌山県薬業会館で今年5月に災害対策研修会を開いた



和歌山県薬

和歌山県薬剤師会は会員の薬剤師を「災害薬事リーダー」として育成する独自事業に取り組んでいる。県内での災害発生時に各地域と県薬本部等を橋渡しする役割を担い、被災者への医薬品調剤やOTC提供が円滑に行われるように支援するもの。2018年度から研修や訓練を開始し、県内8地域で計50人を育成した。今年度も5月に訓練を実施。いつ起こるか分からない災害の発生に備えている。



災害薬事リーダー用に専用の帽子を制作した(右は和歌山県薬の岩城副会長、左は大桑常務理事)



研修会では多数の参加者が各種ツールの使い方などを体験した

各地と県薬本部を橋渡し



参加者は、各医療機関の投薬や検査等の情報を共有する医療連携システム「青洲リンク」を災害時に使用する方法を修得した



災害時に情報を時系列に並べて整理する「クロノロジー」の手法も学んだ

南西に長い海岸線を持つ和歌山県は、近く発生すると予想される南海トラフ地震によって大きな被害を受ける可能性がある。災害発生時には、災害派遣医療チーム(DMAT)など県外の支援班と県内の医療従事者が協力して、救護所等で被災者に医療を提供する。医薬品調剤やOTC提供を円滑に行うために、県薬本部等との橋渡し役となって各地で活躍できる薬剤師を災害薬事リーダーとして育成している。こうした人材を育成する契機となったのは、16年に発生した熊本地震。和歌山県薬の救護班が現地へ出向き、様々な教訓を得たという。和歌山県薬常務理事で災害対策委員会委員長の大桑稔氏(和歌山県薬おくすりセンター薬局・薬情報センター)は、「熊本県薬剤師会の少数の担当者に業務が集中し、大変そうに見えた。災害発生時に活躍できる薬剤師が各地に存在し、業務を分担できればいいと考えた」と振り返る。国は、各都道府県に「災害薬事コーディネーター」の設置を要請しており、和歌山県でも第8次医療計画に役割や担当職種等が明記される見通しだ。詳細はまだ固まっていないが、大桑氏は「われわれが育成した災害薬事リーダーの中から、災害薬事コーディネーターになる薬剤師が現れ、災害発生時には両者が連携して取り組むことを期待している」と語る。



いつでも、簡単に
オンライン診療・服薬指導*が行えるようになりました。

カイトス
KAITOS
オンライン診療・服薬指導システム

*医師の判断により通院が必要な場合があります

共創未来グループ

医療機関の検索から申込・診療
お薬の受取や服薬指導までワンストップで対応

KAITOSの特徴

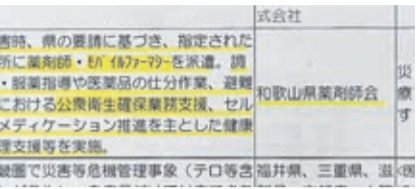
- ① 医療機関検索サイト「病院なび」と連携
- ② 専用コールセンターによる安心サポート
- ③ 豊富な販促資材で集客もサポート

▼お問い合わせはこちら

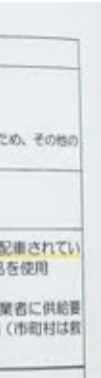
東邦薬品株式会社 CS本部
東京都千代田区丸の内1-9-2 グラントウキョウサウスタワー12階
TEL:03-6838-2822
平日9:00~17:00(年末年始・土日祝日を除く)

自のソフトウェアを開発

災害者の処方情報など管理



同マニュアルには「モバイルファーマシー派遣」の文言が盛り込まれた



「災害」に

和歌山県薬は、熊本地震の支援に出向いた経験を生かし、災害発生時に薬剤師が救護所等で使用する独自のソフトウェアも開発している。

名称は「わかやま-PDASS」。救護所に持ち込んだパソコンでソフトウェアを立ち上げて、被災者の氏名や居場所、連絡先、既往歴、アレルギー歴、処方情報等を入力して管理できる。厚生労働省の医薬品マスタを取り込む機能もある。プリンタと接続すれば薬袋の発行や、医薬品名等を記載したおくり手帳貼付用シールの印刷も可能だ。

熊本地震では、医薬品名や用法、用量を手書きで薬

袋に記載し、患者に渡していた。手間や時間がかかるだけでなく、判読しづらい手書きの文字は、誤薬につながる可能性もある。こうした反省をもとに18年に開発した。このソフトウェアをいつでも使えるように、災害薬事リーダーは訓練を積んでいる。

和歌山県薬は14年に、災害時の医薬品調剤など薬局機能を有した災害対応医薬品供給車両(モバイルファーマシー)を導入。全国の薬剤師会で3番目の早さとなる導入で、熊本地震の支援でもモバイルファーマシーが活躍した。

一包化や散剤の調剤に使える分包機や保冷庫を備

え、水や電気を使える。当初は車内にトイレやシャワーを設置していたが、救護所での活動には不要であることが分かり、後に撤去。空いたスペースに医薬品保管庫を新設した。

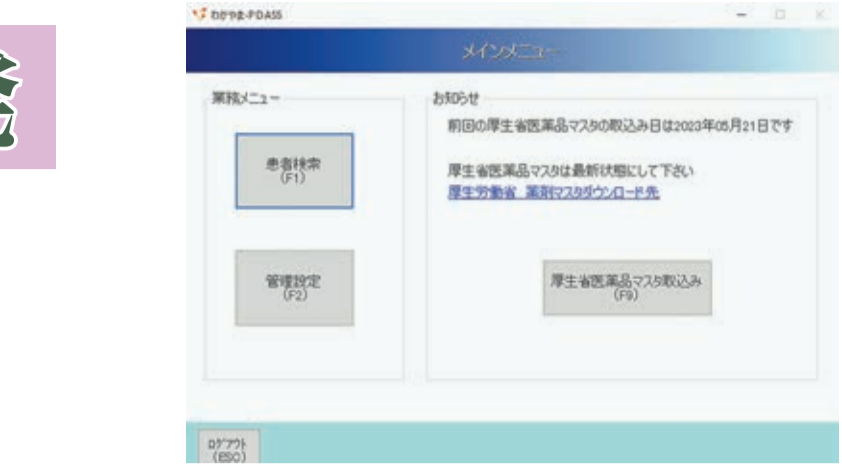
災害時に薬局として機能する有用性が認められ、和歌山県の「地域防災計画」や「災害時医薬品等供給マニュアル」には、モバイルファーマシーの文言が盛り込まれている。和歌山県と県薬の協定内容として「災害時、県の要請に基づき、指定された場所に薬剤師・モバイルファーマシーを派遣」と記載。災害発生時には、モバイルファーマシーを薬局と見なし、卸から医

薬品を購入できることが明示された。

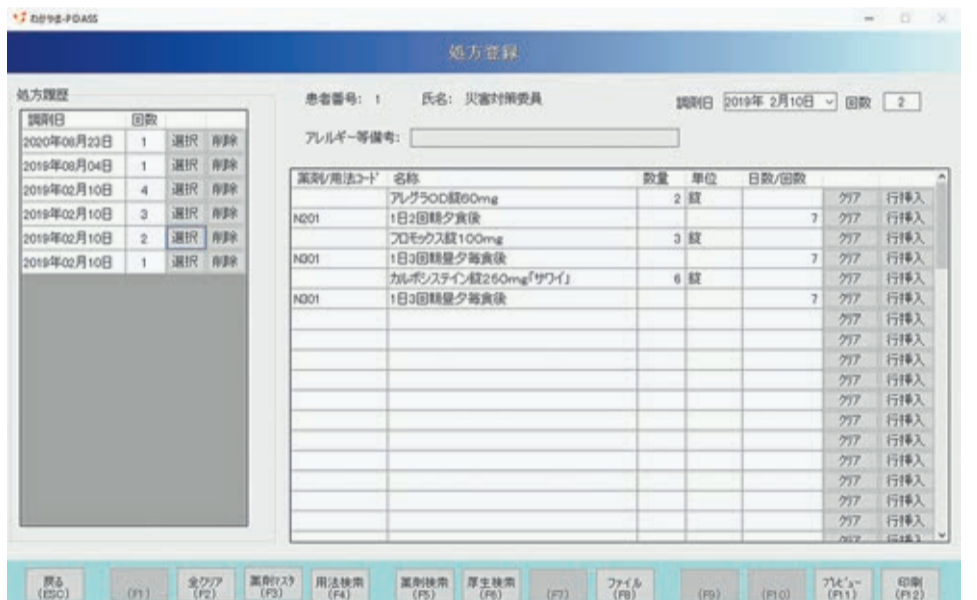
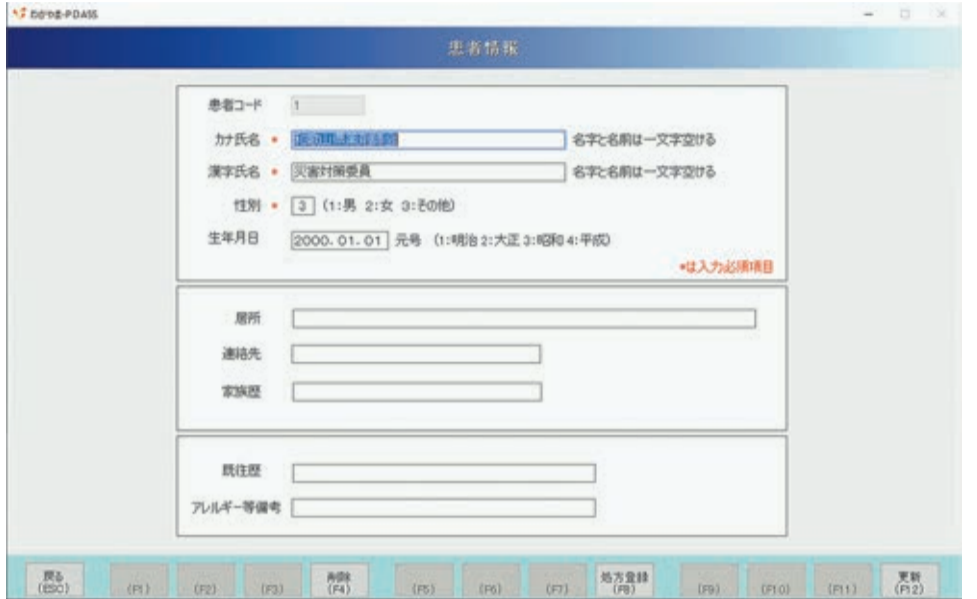
大桑氏は「モバイルファーマシーが救護所から医薬品を卸に発注することは法的にはグレーだったが、こうしてマニュアルに明記されることで、業務をやりやすくなる」と強調する。

災害時、モバイルファーマシーから卸に医薬品を発注できるシステムも確立した。ケーエスケアのシステム「PharPlus」を利用したもので、複数の卸を対象に利用できる。購入費は和歌山県薬の会管薬局で精算する仕組み。これでモバイルファーマシーの機動力がさらに高まった。

救護所に持ち込んだパソコンで「わかやま-PDASS」を立ち上げ、被災者の情報を管理できる



災害発生時に薬剤師が救護所等で使用する独自のソフトウェア「わかやま-PDASS」を開発した



厚生労働省の医薬品マスタを取り込み、患者の処方情報を管理できる



薬局大航海時代! ~未来への羅針盤~

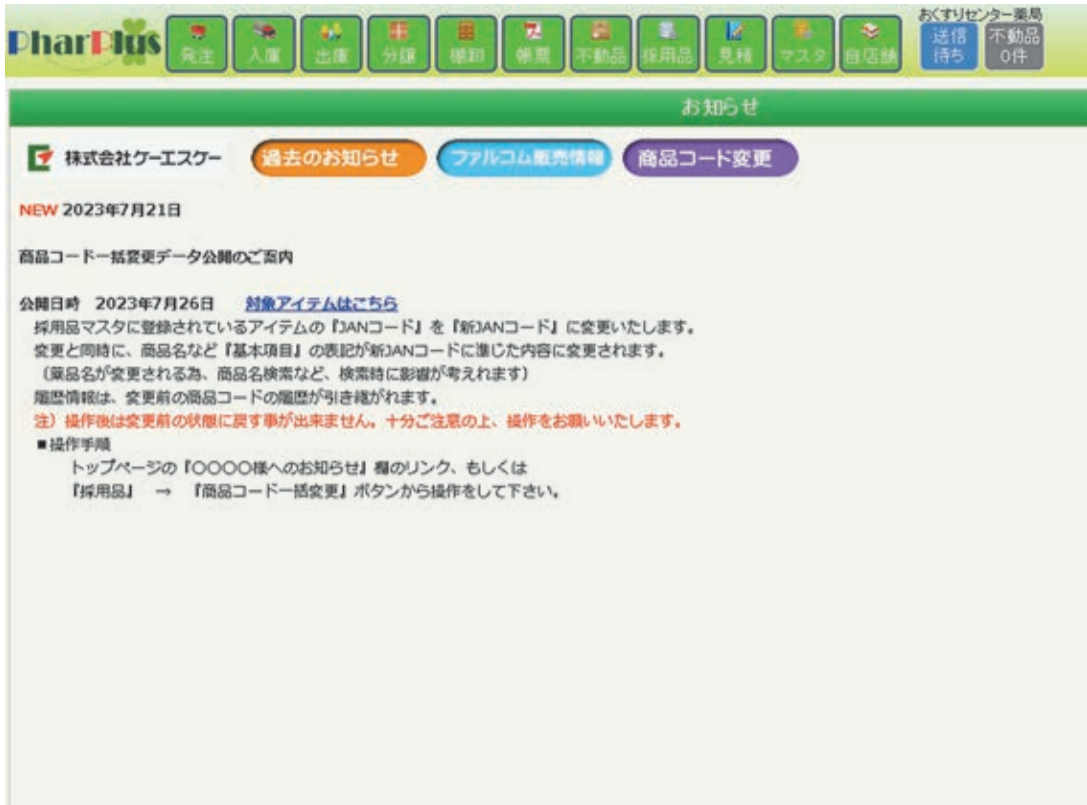
医療DXの一步先へ、薬局コミュニケーションサービスの未来を目指す。



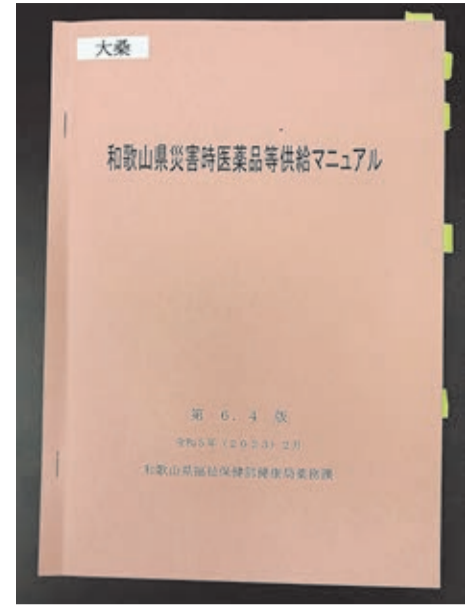
保険薬局システムの詳細は [メルフィン](https://www.mdsol.co.jp/melphin/) <https://www.mdsol.co.jp/melphin/>

※Any COMPASS®、Any COMPASS ロゴは、三菱電機ITソリューションズ株式会社の登録商標です。※Melphinは、三菱電機ITソリューションズ株式会社の登録商標です。

三菱電機ITソリューションズ株式会社 MDSOL



災害時、モバイルファーマシーから卸に医薬品を発注できるシステムを確立



和歌山県の「災害時医薬品等供給マニュアル」



＜関係機関別の医薬品等確保方法＞

関係機関	確保方法(優先順)
医療機関、薬局	① 自らの在庫を使用 ② 平時の取引先からの購入 ③ 県への供給要請 ※急性期においては、災害拠点病院・災害支援病院への供給が優先されるため、その医療機関・薬局への供給は遅延する可能性がある。
SCU	① DMAT 携行品を使用 ② 県への供給要請
救護所	① 医療救護班等が携行した医薬品(モバイルファーマシーが配属される場合はモバイルファーマシー登録医薬品)、救護所在庫品を使用 ② (市町村備蓄医薬品がある場合) 市町村への供給要請 ③ (市町村備蓄医薬品がない場合) 市町村、県を通じて、販売業者に要請。供給要請が常態化してきた場合は、販売業者に直接連絡(市町村備所開設時に要請連絡先を伝えておく)

同マニュアルには、災害発生時にモバイルファーマシーを薬局と見なし、卸から医薬品を購入できることが明示された



「災害」で市民への説明を担当した和歌山県薬のスタッフ



今年8月に大阪赤十字病院で開かれた体験型の防災セミナー「災害モバイルファーマシー」を展覧。一般市民に内部を見学してもらった

いま薬歴は「電子化」から、「クラウド化」へ！

日本初の※

クラウド型 電子薬歴 Medixs

いつでも・場所を選ばず利用できて、クラウド型なのでデータ蓄積による反応・検索速度が低下せず、軽快な動作で業務効率化を支援します。※自社調べ

第56回 日本薬剤師会学術大会(和歌山) 展示会 Medixsブースへのご来場予約をいただいた方に、メディクスオリジナルノベルティを1点プレゼント!

※数に限りがございますので、あらかじめご了承ください。

- ちょっとしたメモに便利な付箋
- 1本あると便利! シヤチハタ機能搭載
- 調剤作業にかかせない
- 持ち運びに便利なウェットティッシュ



ランチョンセミナー同時開催

ランチョンセミナー

南條先生のちょっとだけ「がんばれば」できる。小児在宅医療と薬剤師の関わり

登壇: 医療法人種彦会「かやまクリニック」院長 南條 浩輝 先生
日時: 2023年9月17日(日) 12:30~13:30
会場: ダイワロイネットホテル和歌山 4F グラン

端末指定なし。iPadでも利用可能。
※Androidは保証対象外

展示会ブース F5 ※会場入口右側

ぜひ Medixs ブースへお立ち寄りください。お申込みをお待ちしております!

右記QRコードからお申込みください。展示会来場予約 QRコード ▶▶▶

展示会場: ホテルアパローム紀の国2階 鳳凰の間+ホワイエ



03-6427-9800 お気軽にお問い合わせください (平日受付09:00~18:00)



※電子薬歴『Medixs』『メディクス』はアクシスホールディングス株式会社の登録商標です。
※文中に記載された会社名および製品名などは該当する各社の登録商標または商標です。



熊本地震ではモバイルファーマシーで現地に出向き被災者の支援を行った



益城町でDMATと一緒に支援活動を展開した(中央にいるのは第一班で出務し指揮をとった和歌山県薬の稲葉会長)



救護所の長陽中学校でモバイルファーマシーによる調剤を実施

救護所の長陽中学校でお薬相談室も担当した



モバイルファーマシーは和歌山県薬業会館敷地のガレージに収納している



モバイルファーマシーで支援

和歌山県薬のモバイルファーマシーが初めて災害の支援に出向いたのは、16

年の熊本地震だ。和歌山県薬のメンバーが交代しながら現地で3週間、支援活動を続けた。人員派遣を切り上げた後も、モバイルファーマシーは現地に残り、他の支援チームに数カ月間使ってもらった。

入れ替わり、持ち込む薬もその都度異なる。毎回、薬をリスト化する作業が必要で、和歌山に残ったメンバーに薬の写真を送信し、名称や数量を確認してもらった。リスト作成には持ち参ったパソコンやプリンタが役立ったという。

要が高く、モバイルファーマシーに搭載した急性期疾患用の薬を使う機会はまだなかった。熊本県薬から必要な医薬品の提供を受けたほか、卸から必要な薬を調達し、モバイルファーマシーで調剤した。これまでの経験が和歌山県の「災害時医薬品等供給マニュアル」等に反映された。

薬剤師は救護所の衛生環境を保つ役割も担った。二酸化炭素濃度を定期的に測定し、高いようなら換気して新鮮な空気を取り入れ、被災者の健康維持を支えた。

夜間にモバイルファーマシー車内で薬剤リストを確認する



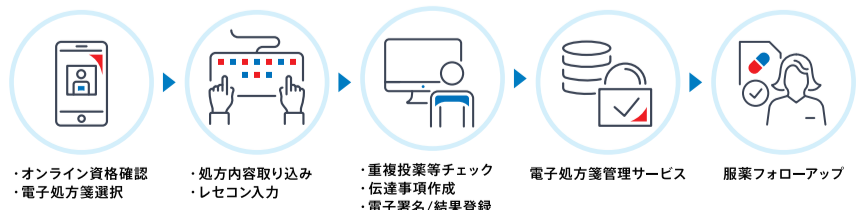
16年の熊本地震、数カ月設置

データ活用の可能性を拡げる薬局向け業務システム

電子薬歴レセコン一体型



「P-CUBE n」は、患者さまの薬物治療や地域住民の健康を支える拠点の薬局向け業務システムとして、オンライン資格確認・電子処方箋・服薬フォローアップに対応しています。



第56回 日本薬剤師会学術大会 会場 和歌山城ホール 4階 2023.9.17日-9.18日(祝) ユニケ展示ブースへぜひお立ち寄りください。

株式会社ユニケソフトウェアリサーチ 03-6747-0030 P-CUBE n 検索 〒105-0012 東京都港区芝大門2-5-5 住友芝大門ビル7階